

所長を辞するに当たって

菊 池 眞 一

新年おめでとうございます。

今年は生産技術研究所が一層発展することが望まれます。昨年は富士通の電子計算機 Facom 270-30 が入り本研究所の研究に威力を発揮することになったし、また数カ月御迷惑をかけた代りに年来希望した暖房設備ができ本号がお手許に行く頃には威力を発揮しているはずですが、また冷房も全館の40%に設備するよう配管を整えましたがこの方はまだすぐという訳にはいきません。事務機構から東大のなかで宇宙航空研究所と本所がまず部課長制になりました。従来事務長の下に事務長補佐があったのが事務部長になり、その下に二課長、二課長補佐ができたのであります。いたづらに役の名称だけ昇格してもと考える方もあるでしょうが東大の中の有力な部局として取扱われていることは喜んでよいと思います。しかしその他は部門の増加もなく、飛躍的な発展といえるほどのことがなかったので今年度の発展を期待する次第である。

とくに昨年は東京大学はその90年来の歴史にかつてない騒動を経験した。1月中旬医学制度の不満に端を發した医学部のストが行なわれ、そういう険しい空気の中で2月上田内科医局に春見医局長吊上げ事件というのがあり、病院内の静粛であるべき所で騒いだということで3月12日に医学部学生12名が処分を受けた。この中で粒良君というのが事件当時にいなかったのに不当に処分されたということから騒動は大きくなり医学部中央館を医学部の活動家の学生が占拠し氣勢をあげてこの処分の撤回を大学当局に迫った。この騒動のうちに全学的な卒業式は開けず、4月の入学式は教官の授護によって大河内総長がかるうじて入学式式辞をのべることができた。事態はその後一向改良されず、6月15日に医学部学生を中心とする活動家学生が安田講堂を占拠し、そこにいた事務系統は退避せざるを得なかった。総長は全学的機能の低下を憂えて17日機動隊を導入して占拠学生を排除したが、この事がまた全学的な反撥を買って紛争は医学部にとどまらず各学部にストが行なわれた。6月28日総長が所見をのべ医学部処分の中の粒良君は現場にいなかったという当人の良心を信じて白紙に戻したが、総長の健康上の理由で尻切れトンボになったので一層学生の不満が増し、7月2日に安田講堂を再占拠し、今度は占拠した学生には医学部以外の学生も多かった。総長および学部長会議、評議会は成行を心配し、8月10日に告示を出し、処分問題は医学部から評議会の委嘱する再審査委員会に検討を移し、別に大学問題の徹底的検討を行なう委員会をつくってこの両委員会を根幹として夏季休暇あけの学生の諒解を得ようとしたが、これも成功せず、遂に全学ストになり、医学部、文学部、経済学部などの事務および研究室が封鎖されて東大としては空前の苦悶状態である。この号が皆様のお手許に着く頃は大きな変革とともに事態は改善されているかも知れないが未だ続いているかも知れない。

この事件は医学部処分問題に端を發し、一部活動家の学生が主動権を握って初めたことは確であるが、紛争が全学的に拡まったことは東大の長い伝統が揺さぶられ、ことに戦後20年の新制度の教育体制を根本から見直す時機にきていると思う。その一つの点は教育と研究の分担をはっきりすることで新制度の教育はそれなりによい点があるにもかかわらず、大学の根本の制度としては研究の方に主力をそそいできたことはいなまれぬ事実である。たとえば学位をもたぬと教官になれないし、学位をとるには研究発表が必要であった。いまや世界の科学と技術は高度化していて研究しつつ教育をというような生やさしい時代でなくなったのである。学部は研究を従として教育に専念すべきである。

しかし研究所はまた非常に重い任務を負うことになろう。東大生産技術研究所は世界における最先端の研究をやっているか。と問われるとき果して諸君はそうだとい切れるか、予算が少ないからとか人手が少ないからというようにない訳は役にたたない。

教官も職員も全力をあげてこの最先端の研究を行なう方向に邁進しなければならない。私は一つの提案をもっている。生研の教官の何人かが一緒になってアメリカの最も活発な研究所、たとえば、ベルテレホン、パツェルなどの研究所を見学し、そこでいかに能率よく研究が行なわれているかを見てきて生研の機構改革をなすべきであると考えます。

私は生研の雰囲気がかまことによく教官職員ともに和氣麗々としていることを常に誇りに思っているが願わくばこの東大の大改革の時に当たって生研が一大飛躍をされることを望んでやみません。

追記 この原稿を書いて間もなく私は3月11日医学部処分を決定した評議会メンバーであった責任をとって生研所長の職を辞しました。したがってこの文は所長の職を去るに当たって皆様にお別れの言葉となりました。新所長一色教授がその御卓見によりお導き下さるものと信じます。

